「こおりやまの米」通信

平成２６年７月１６日

郡山市

イメージキャラクター

「がくとくん」

編集：郡山市

JA 郡山市（TEL. 921-0724）

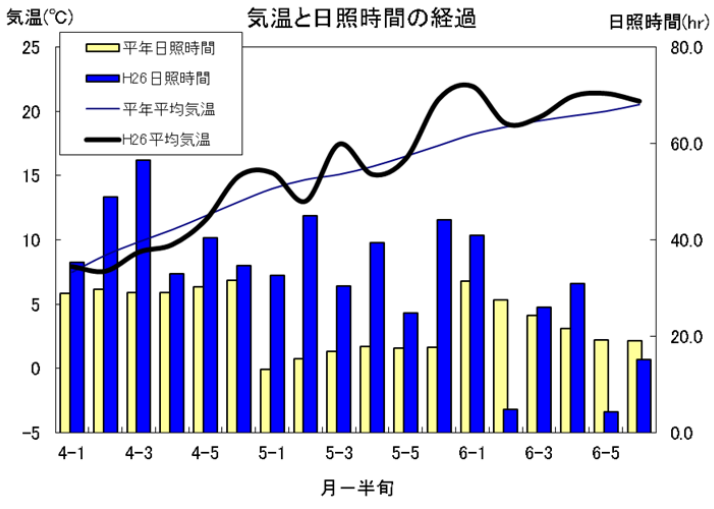
NOSAI 郡山田村（TEL. 933-3307）

県中農林事務所農業振興普及部（TEL. 935-1310）

発行：郡山市農作物生産対策協議会（郡山市農業振興課 TEL 924-3761）

Vol.7　～穂肥の量と時期～　　次号は９月上旬（刈取適期）

＊最新号は JA 各支店窓口にそなえつけてあります＊



7月15日　生育調査結果

品種（調査地点）	年次	草丈(cm)	茎数(本) 株あたり	茎数(本) ㎡あたり
コシヒカリ（三穂田）	本年	67.2	26.1	420
	平年比(%)	93	97	86
コシヒカリ（田村）	本年	74.8	27.0	575
	平年比(%)	101	105	119
ひとめぼれ（安積）	本年	66.3	32.7	510
	平年比(%)	101	104	106
天のつぶ（喜久田）	本年	66.1	28.4	616
	前年比(%)	99	145	193
あきたこまち（湖南）	本年	56.9	30.3	579
	平年比(%)	92	138	139

１　生育概況

７月１５日の生育調査の結果では、草丈はやや短く、茎数はコシヒカリはやや少なく、その他の品種は多い状況でした。葉色はコシヒカリはやや濃く、ひとめぼれはやや薄い状況です。幼穂の状況から、平坦部のひとめぼれは８月４日、コシヒカリは８月９日、高冷地のあきたこまちは８月５日、まいひめは８月１日に出穂すると見込まれます。

２　天気予報

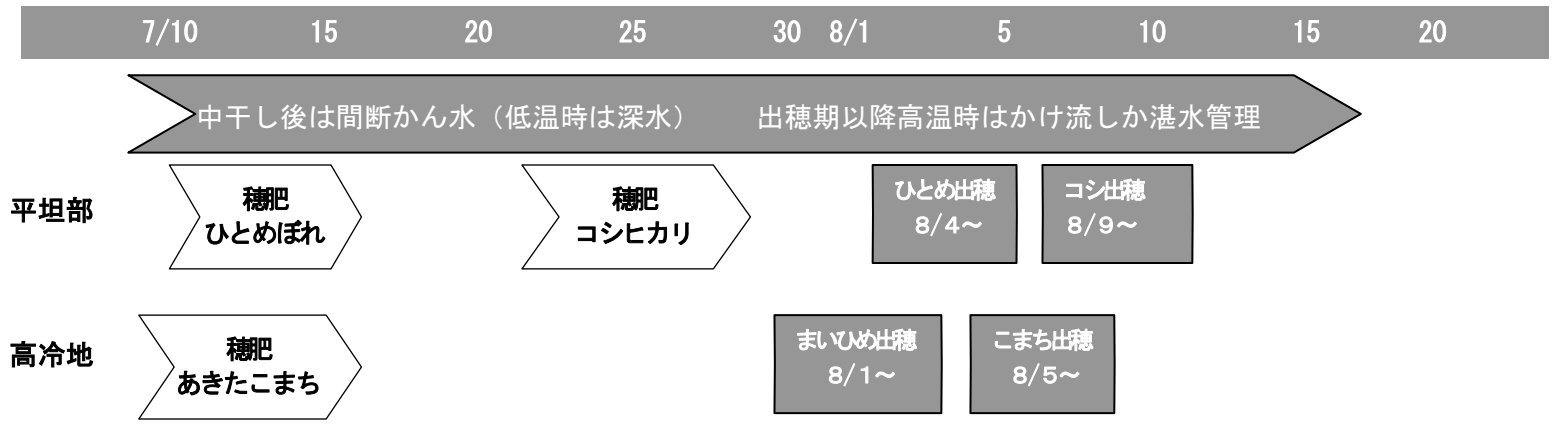
＜東北地方　１か月予報＞　（平成２６年７月１０日　仙台管区気象台　発表）

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう１か月の平均気温は、高い確率５０％です。気温は、１週目は高い確率８０％、２週目は平年並または低い確率ともに４０％です。

降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに４０％です。

３　作業のめやす　**（管内主要品種の予想値です。ほ場ごとに生育を確認し作業日程を決めてください！）**



４　水管理

（１）中干し後は、間断かん水により根を健全に保ちましょう。
　　（低温の恐れがある場合は深水にしましょう）

（２）出穂期以降に高温が続く場合は、できるだけ掛け流しをして水田の水温・地温を下げて、高温登熟による障害（乳白・腹白）を防ぎましょう。

（参考）　水管理期間中の水田水温と水田地温

区名	最高(℃) 水温	最高(℃) 地温	最低(℃) 水温	最低(℃) 地温	平均(℃) 水温	平均(℃) 地温
掛け流し区	**25.4**	**24.9**	**21.4**	**21.6**	**23.1**	**23.1**
常時湛水区	28.4	26.2	23.4	24.1	25.4	25.1
間断かん水区	30.4	29.0	22.3	23.3	25.5	25.8

（2000 年　福島農試）

５　穂肥　～適正な穂肥で倒伏を防ぎましょう！～

（１）現時点での出穂は、平年より２日程度早い予想ですが、今後の天候により変化しますので、**幼穂長等を確認し、適期に追肥しましょう。**

※基肥に一発肥料を使用した場合は、原則として穂肥は行わないでください。

幼穂長による出穂前日数の判定

幼穂長	出穂前日数	備考
1.0mm	２５日	幼穂形成始期
2.0mm	２０日	
8.0-15.0mm	１８日	
40.0-60.0mm	１４日	
80.0mm	１２日	減数分裂期

穂肥の時期と量の目安

品種名	福島県施肥基準	
	穂肥適期	穂肥量（窒素成分）
コシヒカリ	１５日前	２ｋｇ/１０ａ
ひとめぼれ	２５日前	
あきたこまち		

（２）倒伏の恐れがある場合は散布時期を遅らせ、量を減らして施用しましょう！

出穂２５日前の生育の目安

品種	草丈	葉色	茎数（㎡あたり）
コシヒカリ	６５～７０cm	3.0～3.5	550～600
ひとめぼれ	６０～６５cm	3.5～4.0	
あきたこまち	５５～６０cm		

左の目安より多い場合、倒伏の恐れがあります

品種名	倒伏の恐れがある場合	
	穂肥時期の目安	穂肥量の目安
コシヒカリ	7日前まで	1kg/10a
ひとめぼれ	15～10日前	1.5kg/10a
あきたこまち		

（３）**出穂５日前以降の追肥（実肥）**は、玄米のタンパク質が高まり、**食味が低下するので行わないでください。**

６　いもち病防除　～病害虫防除情報　水稲いもち病（葉いもち）が発表されました！～

７月に入り、葉いもち感染好適条件日が多く発生しています。葉いもちの病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤で防除しましょう。また、田植え時に長期持続型殺虫殺菌剤を箱施用した場合でも、**コラトップ粒剤５（出穂１５～１０日前）**等で穂いもち防除を行ってください。

７　斑点米カメムシ類　～斑点米カメムシ類多発注意報が発令されています！乳熟期の薬剤散布は必ず行いましょう～

（１）**畦畔の草刈りは、出穂１０日前までに行いましょう。**

（２）**薬剤防除：粉剤、液剤等による防除は、乳熟期（出穂期※1の７～１０日後）を基本**とします。
粒剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布します。　※1出穂期＝ほ場の半分が出穂した時期

（３）追加防除：その後も発生が見られる場合は、７日あけて追加防除を行いましょう。
割れ籾はカメムシによる吸汁を助長します。**割れ籾の発生しやすい品種（まいひめ、あきたこまち、天のつぶ）では出穂２０日後頃の追加散布**が重要ですので、乳熟期と出穂２０日後の２回散布を基本にしましょう。

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
MR.ジョーカー粉剤DL*	3～4kg/10a	２回	収穫７日前まで
スタークル液剤10*	1000倍、60～150L/10a	合わせて３回まで	
スタークル粒剤	3kg/10a		

＊ 蚕に対する毒性の強い農薬であり、使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。

※使用回数は、無人ヘリ防除等による使用農薬もカウントされますので、使用回数を超えないようにご注意ください。

※殺虫剤はミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響を与える場合があります。養蜂業者（所有者不明の場合は県中家畜保健衛生所 TEL923-1661）との連絡を密にし、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前８時～１２ 時）の散布を避ける等、事故のないようにしましょう。

この資料は、平成２６年７月９日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

○平成26年度福島県農薬危害防止運動展開中（６/１０～９/１０）です！！

～上記注意事項を守り、適切に防除を実施しましょう～

○農地の無断転用はやめましょう！！